



河野氏の館・土居館を京都の東福寺に模して造った善応寺には貴重な古文書や仏像が数多い



四国参拝の先達・中務茂兵衛(なかつかさもへい)が建てた道しるべ。これは発願の標石。
旧粟井坂への入り口でこの上に古戦場や河野通清の供養塔もある



最明寺から大通寺の道は狭い山道をいく



河野家子孫の南通具(みちとも)が、豊臣軍から敗走する途中立ち寄り、好物の柿を植えてこの地に戻ることを祈ったといわれる(雲門寺)



▲山麓の住宅街に隠れてあるJR大浦駅

◀宮内ののどかな田園風景の中に高縄神社の参道入り口がある。鳥居の文字は西園寺公望の書



粟井の井戸。泡のように水が湧いていたから、弘法大師が杖を置いて水が出るようになったとも



さらに北へと山の辺を歩く

姫原からはみかん畑を登る。見晴らしが良く堀江港まで一望できる。この一帯が熟田津という説もある。古代史の謎にロマンを感じながら、丘を下り、潮見山の裾をたどり谷町へ。家々の間に突然現れた「伊能忠敬休憩所」に驚く。ここは歴史・史跡の宝庫で、蓮華寺前に「谷町歴史と文化マップ」が掲げられていた。

「礼拝坂」を上り「生木地蔵」の祭られた祠に着く。ここから堀江にかけては隠れキリシタンの里だったようだ。

16世紀半ば堀江の住民

6人が洗礼を受け、四国最初のキリシタンとなった。その後キリスト教弾圧が激しくなるも熱心な信者たちは密かに信仰を続けた。昭和50年に発見された「隠れキリシタンの墓」が堀江の福角町に祭られている。

海沿いのみちもまた楽し

桜並木が美しい権現川沿いを歩き、古い町並みが残る堀江の町へ。ここからしばらくは海沿いを歩く。



最明寺にある一茶の句碑と肖像を刻んだ石

いっまた 齋灘を渡る風が心地よい。子規が「涼しさや馬も西向く淡(粟井坂)」と詠んでいるが、このあたりは国道が整備される以前旧今治街道で一番の難所だったという。

河野氏の本拠地

河野氏の古戦場もあり、いよいよ風早の郷に足を踏み入れたようだ。

山の辺のみちは粟井川に沿って山の中へ。黄檗宗(うんもんじ)雲門寺に立ち寄った。美しい伽藍や樹齢400年以上の大木「南柿」を見るためと、ここから先の長い山道に備え、休息を取るためもある。山道を抜けると、道後湯築城へ移る前に河

一茶の道から終点へ

野氏が居城としていた善応寺に着く。ここからは森さんお勧め、山裾をくねくねと行く、のどかないなかが道が続く。

あばれ神輿の国津比古命(くにつひこのみこと)神社から「一茶の道」に合流する。最明寺の住職茶来(ちかき)に会うために今治を出立した一茶が歩いた道だ。所要所に「一茶の道」の案内立て札が一茶の進行方向を向いて設置され、山道も迷うことなく歩ける(こちらは逆流しなければならぬが)。

弘法大師ゆかりの鎌大師堂から一茶の道と別れ海へ、道の駅「風早の郷」



一茶の道の案内札